

平成 25 年度

株式会社グリーン Copp 委託

野生動物「ツキノワグマ林木剥皮被害・クマ剥ぎ」
による食害樹木保護資材の設置試験事業報告書

平成 26 年 3 月

里山獣類研究所

目次

1	研究目的	02
2	食害樹木保護資材の設置状況	02
	(1) 調査場所	02
	(2) クマ剥ぎ被害状況	03
	(3) 樹木保護資材設置状況	04
3	雪害状況および雪害対策	09
	(1) 研究目的	09
	(2) 研究方法	09
	(3) 研究期間	09
	(4) 研究結果	09
4	ツキノワグマによる食害樹木保護資材の被害状況	12
5	おわりに	14

1 研究目的

あわら市刈安山・清滝における野生動物による食害に対応するための保護資材の実証試験を実施する。保護資材を設置し雪害などを含めた総合的な経過測定を実施する。

2 食害樹木保護資材の設置状況

(1) 調査場所

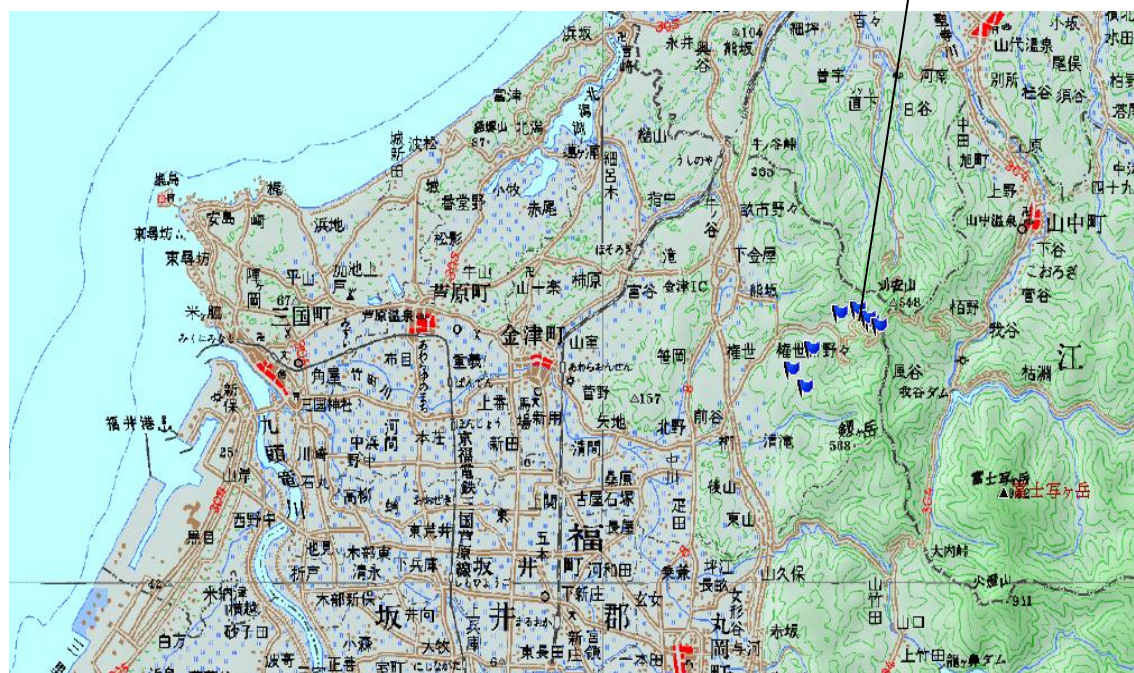


図1 調査場所

(2) クマ剥ぎ被害状況

調査はあわら市刈安山・清滝でおこないクマ剥ぎ被害状況を確認した。クマ剥ぎ被害はかなり広範囲で被害が発生していた。被害が発生していない箇所も見られたが、少し離れると被害発生地にたどりつくといった状況である。

クマ剥ぎは、他地域と同様にスギに多くみられ立木の樹皮を全周あるいは山側のみ、谷側のみなど複合的に剥がされており枯死木もみられ林業被害は甚大なものである。なんらかの剥皮被害防止を進めていかなければ林業経営がなりたたない状況である。



写真 1：クマ剥ぎ被害木

写真 1 は、樹種はスギで林業被害、ツキノワグマに樹皮を全周剥がされており枯死木となっている状態である。このような枯死木は倒木していく事になる。

(3) 樹木保護資材設置状況

(株) グリーンコップのクマ剥ぎ被害防止資材を現在、あわら市刈安山・清滝の森林に設置しクマ剥ぎ対策を実施している。



写真 2：クマ剥ぎ対策資材設置例



写真 3：クマ剥ぎ対策資材設置例



写真 4：クマ剥ぎ対策資材設置例
 (剥皮被害を受けているが保護している。林業家の守りたいという気持ちが伝わる)



写真 5：クマ剥ぎ対策資材設置例

クマ剥ぎ対策は、立木の地際から 1.5m ほどの高さまで樹皮を保護しクマの攻撃を抑制する必要がある。



写真 6：クマ剥ぎ対策資材設置例



写真 7：クマ剥ぎ被害激害地での設置例

写真 7 は、激害地で多くのスギがクマにより被害を受けている。これ以上クマに被害にあいたくないという事で被害を受けた木も含み樹木保護を実施している。



写真 8 : クマ剥ぎ対策資材設置例

写真 8、写真 9 は、新たなタイプのクマ剥ぎ対策資材で作業効率を軽減する目的で開発された資材である。



写真 9 : クマ剥ぎ対策資材設置例



写真 10：樹木保護資材



写真 11：樹木保護資材

クマ剥ぎ被害は、いまだ解決策は見いだせていない。近畿地区では、荷造りテープなどで対策をするという方法で補助金等があり体制は整いつつある。全国的にみても試験をしながら対策手法をさぐるしかない状況だ。なににしろ、現在の状況を放置するわけにもいかない事から樹木保護資材の設置、被害の軽減、調査研究が今後も必要と思われる。

3 雪害状況および雪害対策

(1) 研究目的

クマ剥ぎ対策のために設置した樹木保護資材の雪害対策を検討する。

(2) 研究方法

クマ剥ぎ対策のために設置した樹木保護資材の雪害状況を把握する。

(3) 研究期間

平成 25 年 12 月に現地調査実施

(4) 研究結果

クマ剥ぎ対策のために設置した樹木保護資材の雪害状況を観察した。



写真 12：積雪の影響により樹木保護資材が垂れ下がっている



写真 13：積雪の影響により樹木保護資材が垂れ下がっている



写真 14：積雪の影響により樹木保護資材が垂れ下がっている

このように設置した樹木保護資材の垂れ下がり、クマの被害が起こりやすくなる可能性がある。

雪害対策



写真 15：樹木保護資材 垂れ下がっていない状態
地上から 150 c m までの高さで維持されている



写真 16：樹木保護資材 垂れ下がっている状態
地上から 100 c m までの高さまでしか保護されていない

このような状態ではクマが簡単に被害を発生させてしまうため本来であれば写真 16 から写真 15 の状態に戻す必要がある。施工の際には資材を垂れ下がらないように工夫する必要がある（雪害対策）。

4 ツキノワグマによる食害樹木保護資材の被害状況



写真 17：樹木保護資材をずらしてクマが剥皮した状態



写真 18：樹木保護資材をずらしてクマが剥皮した状態



写真 19：樹木保護資材をずらしてクマが剥皮した状態



写真 20：樹木保護資材をずらしてクマが剥皮した状態

クマ剥ぎ被害対策としてこれら資材は有効であるが 100%の防除は困難を極める。

林業被害はいまだ深刻な状況であり今後もツキノワグマ被害の被害防止調査、研究を継続していく必要がある。

5 おわりに

平成 25 年度、株式会社グリーンコップ委託の野生動物「ツキノワグマ林木剥皮被害・クマ剥ぎ」による食害樹木保護資材の設置試験事業を完了したことを報告する。

株式会社グリーンコップのクマ剥ぎ対策資材は良質なもので、使用資材としても扱いやすく樹木にもからみやすいという特徴があり効果は期待できる。

しかし実際に施工するには森林組合の方などの作業員さんが実施することになり資材の特徴や使用方法など把握しきれずに設置してしまうと雪害の要因、クマに安易に被害を起こされるなどの被害が発生しているので資材を設置する際には注意が必要である。

今後もクマ剥ぎ被害状況、対策資材への被害行動など調査研究を継続しクマ剥ぎ被害軽減へ向けて対策を考案していく必要がある。

平成 26 年 3 月 18 日

里山獣類研究所

代表 小林勝志